

1 単元名 詩を読もう

2 単元の目標

- ・ 詩を声に出して読もうとする。
- ・ 詩を読んで、面白さや楽しさを感じ取ることができる。
- ・ 詩を音読したり、工夫して読んだりすることができる。

3 単元の評価規準

観 点	評 価 規 準
国語への関心・意欲・態度	詩を声に出して読もうとしている。
読む能力	詩を読んで、面白さや楽しさを感じ取っている。
言語についての知識・理解・技能	詩を音読したり、工夫して読んだりしている。

4 指導にあたって

(1) 単元にあたって

言葉を声に出す活動は大切である。目で見えた文字が音となって言葉になるということは、生活に密着した生きる能力ともなる。

本学級には、3、4年生の男女が3名在籍し、家庭学習の本読みでは同じ内容ばかり読みたがる傾向にある。言葉を声に出して表現することにも抵抗があり、大きな課題となっている。イ列音が上手く出せず「ひ」が「し」になったり、読み間違いがあったりと、それぞれに音読する上での課題を持っている。日常会話やスピーチでは話すことができても、書かれている文章を上手に読めないことが多い。

詩は、テーマが分かりやすく、印象的なフレーズが使われることが多い。そのため、児童には内容が理解しやすく、それだけに声に出して読むことも比較的取り組みやすいと考える。そこで、本単元では詩を題材として活用する。

本単元では、川崎 洋「たんぽぽ」を題材とする。一連9行の短い詩だが、「おーい」とたんぽぽの綿毛に呼び掛ける部分はリズム感があり、読みやすく面白い。呼び掛ける活動をしたり、言葉遊び的な面白さを感じ取らせたりしながら、音読の向上につなげていきたい。

(2) 児童の実態（在籍 4年生 男子1名 3年生 男子1名 女子1名）

4年生男子は、ADHDとてんかんの薬を服用している。注意されると反抗的な態度を見せたり、暴力を振るったりする。

3年生男子は、学習面にはほぼ問題がないものの、友達とのコミュニケーションを取るのに課題がある。

3年生女子は知的な遅れが大きく、できない、分からないと過剰に拒否反応を示す。

4年生男子が、時に教室を抜け出したり、学習に集中できなかつたり、他の児童の気持ちを乱したりするため、担任が4年生男子に一对一で関わることが多く、全体での指導が難しい。しかし、決まったパターンのある学習には取り組みやすい。

児童	本単元に関する児童の実態	本単元に関する児童の個別目標
4年 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 警察、パトカーへの関心が強い。ご褒美等の具体的な目標があると頑張れることが多い。 ・ 気持ちが落ち着いていれば、黒板の文字をノートに書くことができる。しかし、文字を間違えたり、書いている時に紙が曲が 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任の話聞き、学習活動に取り組もうとする。 ・ 「コスモス」を並べ替えて新しい名前を作ることができる。

(男)	<p>ったりすると、紙をくしゃくしゃにしたり、鉛筆を投げたりするので、書く活動は少なくしている。しかし、配慮をしても、本人がどうしても書くことにこだわった場合は、何とか支援して区切りがつくところまで行わせている。一度始めると、かんしゃくを起こしてもやり終えないと気が済まないのが、判断が難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった出来事の感想や知り合いへの手紙等、作文に書くことは、気持ちが乗っていれば得意な内容である。 ・音読が得意で、初見の文章でもすらすらと読むことができる(漢字や語句は2年生程度)。 ・自分の考えを話すことは大好きである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「たんぽぽ」の詩を元気よく読むことができる。 ・詩について気付いたことや面白いところを話すことができる。
3年 B (女)	<ul style="list-style-type: none"> ・知的な遅れがあり、朝の会で朝ご飯が何だったかを話すことが苦手である。物事の記憶があやふやなため、「分からない」と感じ、「できない」と思うことが多い。そして、間違いを指摘されると過剰に拒否反応を示す。そのため、「分かる」「できる」ことを見付けて認めたり、褒めたりすることが意欲を高めることになる。「分かる」「できる」となれば、楽しさを表情に表して頑張る。 ・担任と会話しながら、平仮名を一文字ずつ言ってやれば平仮名全てと片仮名の大体を書ける。黒板の文字は見て書くことができる。 ・名詞・助詞など言葉を線で囲んでまとまりにすると、読むことができる。 ・好きなことや見たことがあるもの、経験があるもの(生活経験に乏しいが)については、問われれば話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任の話を聞き、学習内容を理解しようとする。 ・「コスモス」を並べ替えて名前を作ることができる。 ・詩を自分の力で音読することができる。 ・学習したことや楽しかったことを話すことができる。
3年 C (男)	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の指示を理解し、進んで活動しようとする。自分の考えや想像を表現するのは苦手で、アイデアやヒントを与えると頑張れる。 ・2年生程度の漢字・語句の意味を理解し、物語などの内容についての問いに対しても適切に答えを書くことができる。平仮名は、すぐに書けない(思い出せない)ことがある。発音が不明瞭のための書き間違いが少しある(「ひやくえん」→「しゃくえん」など)。 ・音読はすらすらとできる。人物の気持ちに寄り添って読んだり、強弱をつけて読んだりすることは課題である。 ・朝のスピーチでは、「昨日の学童クラブのことを話します」等、自主的に話す内容を先に示して話している。ゲームや弟の話等、好きな内容は早口になるが、出来事を正しく話すことはできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を理解し、進んで考えようとする。 ・「コスモス」を並べ替えて名前を作ることができる。 ・呼び掛けを意識して詩を音読することができる。 ・気付いたことや面白かったことを詳しく話すことができる。

(3) 単元の指導の着眼

「たんぽぽ」は短い詩であり、漢字も最低限で提示するため、「難しい」「分からない」と感じにくいと思われる。たんぽぽは、児童がよく知っている身近な花であり、その特徴も理解しているため、取り組みやすいと考えた。

また、「おーい」という呼び掛けが続く部分はリズムが良く、音読する上で読みやすい。「たんぽぽ」の4文字を入れ替えて読むのは、少々読みづらさを感じるものの、意外性や面白さに通じる部分がある。

男子2名は、2年生までの漢字をほぼ読むことができる。女子は、2年生の漢字を学習中である。そのため、読めない漢字は平仮名表記とする。

まずは、範読し、一斉音読をする。そして、気付いたことを発表させる。綿毛に呼び掛けるところに着目させ、部分的に繰り返して音読をさせる。

実際に一人一人が机上でカードを操作することで、「たぼんた」「ぼぼんた」「ぼんたぼ」「ぼたぼん」は、「たんぼぼ」の4文字を並べ替えたものだと理解させる。ゲーム的な活動の中で面白さや楽しさを味わわせたい。一定のきまりの中で遊びを通した活動が学びになると考える。

最後に、秋の草花としてコスモスを題材に名前の部分だけを抜いて提示し、たんぼぼと同様の詩を作らせる。9月に町の特別支援学級合同の校外学習で、「コスモス園」に行っており、コスモスは馴染みがあると考え。写真を提示し、校外学習のことを思い出させながら名前の部分の並べ替えをすることで、詩の楽しさを味わわせたい。

5 本時の指導

(1) 目標

- ・ 詩を声に出し読もうとする。
- ・ 詩を読んで、面白さや楽しさを感じ取ることができる。
- ・ 詩を音読したり、工夫して読んだりすることができる。

(2) 評価規準

- ・ 詩を声に出して読もうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- ・ 詩を読んで、面白さや楽しさを感じ取っている。【読む能力】
- ・ 詩を音読したり、工夫して読んだりしている。【言語についての知識・理解・技能】

(3) 本時に対する児童の実態と目標

項目	児童名		
	A	B	C
着席して、落ち着いて学習することができる。	△	◎	◎
静かに集中して読み聞かせを聞くことができる。	○	◎	◎
詩を音読することができる。	○	△	◎
気付いたことや面白いと思うことを発表することができる。	◎	△	○
4文字の言葉を入れ替えて名前を作ることができる。	△	△	◎
本時の学習を振り返り、感想を発表することができる。	◎	△	○

◎できる ○できる時とできない時がある △教師と共に行うとできる

児童	本時の目標
A	着席して、落ち着いて学習しようとする。
	詩を読む学習を楽しんで行うことができる。
	学習のきまりを守り、自分の活動を振り返ることができる。
B	学習内容を理解して、活動しようとする。
	平仮名を並べ替えて名前を作ることができる。
	今日の学習を振り返ることができる。
C	気付いたことを発表しようとし、進んで学習しようとする。
	新しい名前を作る活動を楽しんで行うことができる。
	学習した内容を振り返ることができる。

(4) 準備物

絵本「フンガくん」、音読用フラッシュカード、詩の拡大掲示
 たんぽぽとコスモスの写真、「た」「ん」「ぽ」「ぼ」カード（掲示用・操作用）
 「コ」「ス」「モ」「ス」カード（掲示用・操作用）

(5) 学習過程 ※次ページ

(6) 本時の評価

児童	評価の観点	評価
A	着席して、学習することができたか。	
	楽しんで学習することができたか。	
	頑張ったことを振り返ることができたか。	
B	やることが分かって活動できたか。	
	担任の指示を聞いて楽しく活動できたか。	
	何を学習したか振り返ることができたか。	
C	進んで学習することができたか。	
	自力で言葉を探し、新しい名前を作ることができたか。	
	学習の振り返りを詳しく話すことができたか。	

◎よくできた ○できた △もう少し

(7) 板書計画

<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> コ ス モ ス 写 真 </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> た ん ぽ ぽ 写 真 </div>	
コ ス モ ス 風にまけるな おーい おーい おーい おーい みんな名まえがあるんだ	た ん ぽ ぼ コスモス わかば学きゆう	たんぽぽ たんぽぽが たくさん とんでいく ひとつ ひとつ みんな名まえがあるんだ おーい たぽんぽ おーい ぽぽんた おーい ぽんたぽ おーい ぽたぽん 川に おちるな
		たんぽぽ 川崎 洋

(5) 学習過程

段階	主な学習活動と予想される児童の反応			教師の主な働きかけ	支援及び留意点	評価準備物
	4年A	3年B女	3年C男			
挨拶をする 2分	1 始めの挨拶をする。 着席しているならば調子が良い。			はっきりとした声で話すように声掛けをする。	注意力が不足しがちなので日直の声に対する返事，担任への注目をきちんとさせる。	
お話を聞こう 10分	2 読み聞かせを聞く。 着席していない可能性がある。内容よりも絵に興味を持つ。わくわくした表情を見せる。			短く分かりやすい内容の絵本を読み聞かせする。	抑揚をつけて読み，聞くことに集中させる。	絵本「フングくん」
読んで覚えよう 8分	3 言葉の学習をする。 読めるので，他の児童に当てる前に読んでしまう。読めない，読もうとしない，読むように言われると顔を隠す。発音が苦手な語は意欲が下がる。			日付の読み方や，数詞等，定着していない言葉を声に出して読む。フラッシュカードを使ってテンポ良く行う。	はっきりと読めるよう，口をしっかりと開けて話すようにさせる。	フラッシュカード
詩を読もう 22分	4 本時の学習内容を知る。 自分にとって興味のある内容かを見定めようとする。特に反応は見せない。担任の言葉掛けに反応し，わくわくしている。			意欲を高められるような言葉掛けをしながら詩を掲示する。既習の内容や経験を思い出させる。	実物の写真を見せ，たんぼぼを想起させる。	たんぼぼの写真 詩の拡大表示(掲示)
	5 詩の学習をする。 ① 範読する。 自分のペースで読めている時は良いが，そうでないとかんしゃくを起こす。友達についてゆけず，途中から読まなくなる。担任に続いて読もうとする。			一度範読し，一行ずつ繰り返して読みをする。	呼び掛けの部分に気持ちを入れて読むように声掛けする。	

詩 を 読 も う	② 詩の内容について話し合う。			詩の内容がどんなものか かを聞く。 気付いたことや面白い と感じたことを発表で きるとよい。	「何がどうした」と いう問いで、内容の ことを話させたい。				
	知っている知識 を話してにこに こする。あるいは 関心がない。	何も知らない。指名さ れると目をパチパチ させる。	知っていることは どんだん話そうと する。						
	③ 「たんぼぼ」の並べ替えをする						「た」「ん」「ぼ」「ぼ」 を並べ替えて「ぼぼん た」等の名前を作らせ る。 できた名前を声に出 して言わせる。	カードを操作するこ とで楽しさを味わわ せながら行わせる。	「たん ぼぼ」 カード 掲示用 操作用
	面白がって操作 する。	並べてできたことを 喜ぶ。	文字をきちんと確 かめながら作る。						
	④ 呼び掛け部分の音読をする。								
面白がって必要 以上に大きな声 を出す。	か細い声で言う、も しくは大きな声が出 せる。	恥ずかしそうに取 り組む。							
面白さを感じ、 一人で笑ってい る。	上手く言えずにやら なくなる。	首をかしげながら もやろうとする。							
22 分	⑤ 「コスモス」の詩を作る。			秋の花の代表であるコ スモスを使って同様の 詩を作らせる。 できたものを音読させ る。	コスモスの写真を見 せ、9月の校外学習 で「コスモス園」に 行ったことを想起さ せる。 児童の机上でできた 名前を黒板に表示し ていく。	「コス モスカ ード」 掲示用 操作用 「コス モス」 の台紙			
	疲れて離席する か、やろうとし ない。	カードの操作には喜 んで取り組む。	一つ一つ考えなが ら取り組む。						
振 り 返 ろ う 3 分	6 振り返りをする。			本時を振り返って感想 を発表させる。 児童の頑張りを大いに 褒める。	無理に話させず、自 然な感想を言わせた い。				
	楽しそうに立派 な感想を言う。	何も言わない。	活動したことを言 うか、「面白かつ た」と言う。						

